

「地図豆」の地図を広げて街歩き

84-1 野菊の墓から矢切の渡し (6.0km)



戸定邸

『野菊の墓』の時代に思いを寄せながら、矢切の渡しから柴又帝釈天へとたどる。

【道順】

JR 松戸駅→戸定邸→(浅間神社→)新京成未成線跡(住宅)→矢切神社・矢喰村庚申塚→野菊の小道→野菊の墓文学碑→野菊の蔵(農産物などの販売)→矢切の渡し→柴又帝釈天→京成柴又駅



【街歩き解説】

・戸定邸、戸定歴史館：

明治17年に幕府最後の将軍徳川慶喜の弟、徳川昭武が建設し、後半生を過ごしたのが戸定邸である。戸定邸には慶喜公もたびたび訪れ、趣味の狩猟や写真を楽しんだという。平成3年に「戸定が丘歴史公園」として整備され一般公開されているが、徳川家の住まいが公開されているのは全国でもここだけ。

芝生を使い、洋風を取り入れ、明治前期の上流住宅の姿を伝えていることから国の重要文化財に指定された。隣接して昭武や慶喜の遺品を展示する戸定歴史館がある。

・野菊の墓文学碑：

矢切を舞台にしている伊藤左千夫の純愛小説「野菊の墓」を記念して昭和40年に建立された文学碑で、伊藤左千夫の門人土屋文明の筆により、「野菊の墓」の下記の一節が刻まれている。

『僕の家というのは、松戸から二里許り下って、矢切の渡しを東へ渡り、小高い岡の上でやはり矢切村と云っている所。矢切の斎藤と云えば、この界隈での旧家で、里見崩れが二三人ここへ落ちて百姓になった内の一人が斎藤と云ったのだと祖父から聞いて居る』

隣接する野菊苑公園とともに高台にあり、ここからの見晴らしは素晴らしく、矢切耕地、江戸川の流れ、遠方には東京の街並みが見渡せる。



野菊の墓文学碑から柴又方向・柴又商店街

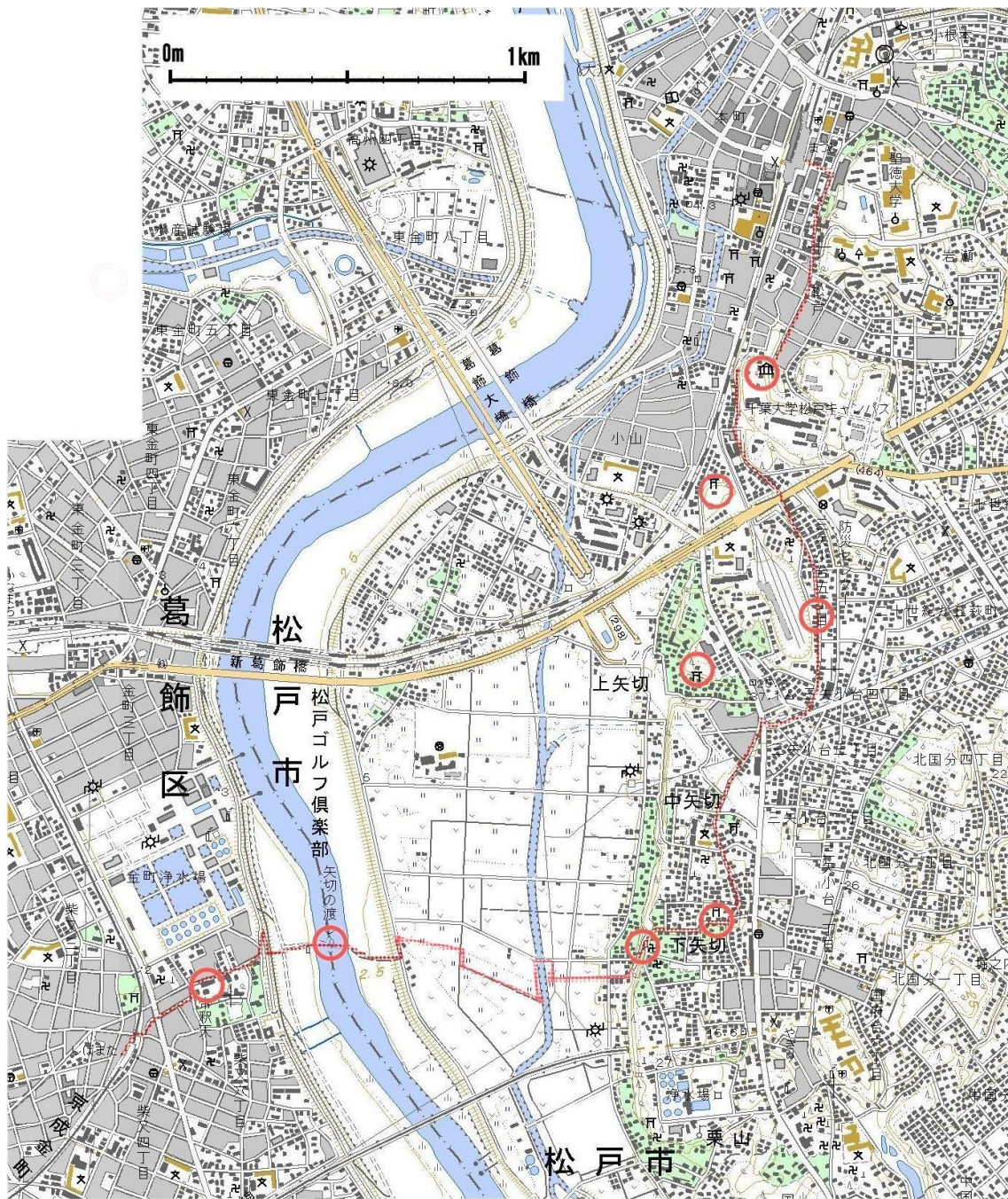
・野菊の蔵：

矢切の渡しのすぐそばに松戸の観光と矢切地域の情報発信をする蔵があり、地元・矢切の農産物や松戸の土産物も販売中している。

・矢切の渡し：

江戸時代初期、地元住人専用に幕府が設けた渡し場のうちのひとつで、関所を通らずに江戸と往来した農民渡船で、松戸市矢切と葛飾区柴又を結んでいる。都内に残っている渡しはここだけ。

ルートマップ



**** オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu ****